

Case 14

SDGs×地域連携活動

フェアトレード商品を活用した共創事業と食育

人間栄養学部 人間栄養学科

フェアトレードとSDGs

1. はじめに

人間栄養学部人間栄養学科実践応用栄養学研究室では、令和4年度から千代田区内を舞台にSDGs(持続可能な開発目標)をテーマにした社会活動を行っています。

令和7年度は、大学4年生3名が、若い世代に「もっとSDGsを知って欲しい」、「SDGs活動に参加して欲しい」との思いをもって、フェアトレードをテーマにした活動を企画、運営しました。

2. フェアトレードとは

令和4年度に人間栄養学科に所属する1年生の女子学生を対象に実施したSDGsをテーマとしたアンケート(有効回答数132名)において、「行動したいこと・する予定があること」に対し「節電・節水をする(50.4%)」、「ごみを出さないようにする(38.2%)」に次いで「フェアトレードの商品を購入する(34.1%)」の順に多い回答が得られました。

フェアトレードとは、「公正な貿易」という意味で、途上国など弱い立場にある生産者や労働者が適切な価格で商品を取り引きできるよう支援する仕組みのことです。

フェアトレード基準の要素には経済的基準、社会的基準、環境的基準があり、消費者がフェアトレード商品を選ぶことで生産者の安定的な収入や安全な労働環境の確保、強制労働や児童労働の禁止、環境や生態系の保護にも貢献することができます。つまり、SDGsに貢献する取り組みの一つとして、重要な役割を担っています。

そこで、若い世代の興味関心が高かったフェアトレードをテーマに①「SDGsランチ」の開発、②コーヒーゼリーの販売、③大学1年生を対象にしたSDGsに関する食育を実施しました。

活動の概要

1. フェアトレードのコーヒーを使った「SDGsランチ」の開発

今回の「SDGsランチ」にはフェアトレードの代表的な商品であるコーヒーを用いることにしました。コーヒーには苦味、酸味、コク、アロマなどの特徴があり、食事とともに、あるいは食後に楽しむ飲み物として親しまれています。また、生活習慣病予防などの健康効果についても多数報告されています。今回、ランチメニューの開発にあたっては、コーヒーの新たな魅力を引き出すために「食べて楽しむコーヒー」をコンセプトに料理に取り入れてみることにしました。

完成した「SDGsランチ」は、日比谷パレス（千代田区日比谷公園1-6）にて9月に1か月間販売し、好評を得ました。

2. コーヒーゼリーの販売

学園祭(ローズ祭)で、フェアトレードのコーヒーを使ったコーヒーゼリーを製造し、150個全て完売しました。

3. 大学1年生を対象にしたSDGsに関する食育

人間栄養学科に所属する1年生70名を対象にフェアトレードをテーマとした食育を行いました。食育後のアンケート結果から、社会貢献したいと思った学生が増えました。しかし「方法が分からない」といった回答から、SDGsに取り組む行動に繋がりにくい要因があることが分かりました。



人間栄養学部人間栄養学科
実践応用栄養学研究室

コーヒーゼリー

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1個200円

おいしく食べて
SDGsに貢献

販売場所
1302

まとめ

今回の調査から、SDGsへの関心は高く、特に日常生活の中で身近に行える社会貢献活動については意欲が高いことが分かりました。食育を通してSDGsに貢献したいと思った人が90%以上を占めたものの、「方法が分からない」や「忙しい」といった回答から、SDGs活動を促進させるにあたり課題が認められました。このことから、一緒に活動する仲間づくりの場の提供や、イベントを一緒に企画するといった支援が必要であると考えられました。さらに、SDGs活動にともなう達成度を見える化することも活動促進の要素になります。

一方、見た目が美味しそうであればSDGsに関係なく購入する動機になることが認められました。私たち栄養の専門家は、「おいしいものを提供する」という本来の役割を通じて、人々が自然とSDGsに参加できるきっかけを提供できると実感しました。

プロジェクト概要

- パートナー
日比谷パレス
- 担当教員
人間栄養学部 人間栄養学科
准教授 加藤 理津子
- 学生
人間栄養学部 人間栄養学科
4年生 3名
- 実施期間
令和7年6月～10月